



# 2021年12月期 決算説明資料

アジアクエスト株式会社

2022年2月22日

証券コード：4261

---

# 目次

---

- 1 会社概要
- 2 2021年12月期業績
- 3 2022年12月期業績予想
- 4 今後の成長戦略
- 5 Appendix

# 1 会社概要

# 会社概要

---

社名 アジアクエスト株式会社

設立 2012年4月11日

代表者 代表取締役社長 桃井 純

所在地  
本社 東京都千代田区飯田橋3-11-13 飯田橋i-MARK ANNEX6階  
福岡オフィス 福岡県福岡市中央区舞鶴1-1-11 天神ガラスビルディング6階  
別府オフィス 大分県別府市駅前町12-12 ANNEX KEI BL 2階

ホームページ <https://www.asia-quest.jp/>

資本金 392,094千円 (2021年12月末)

従業員数 239名 (2021年12月末)

主要株主 桃井 純、JHDアセットマネジメント株式会社 等

子会社 PT.AQ Business Consulting Indonesia(インドネシア法人)  
AsiaQuest Internet Malaysia SDN. BHD.(マレーシア法人)

# ミッション・理念

---

## Mission ミッション

企業のデジタルトランスフォーメーション  
(DX) を支援する

## Philosophy 理念

時代の変化の中に、無限の機会を見出し、  
そこに価値を提供していくこと

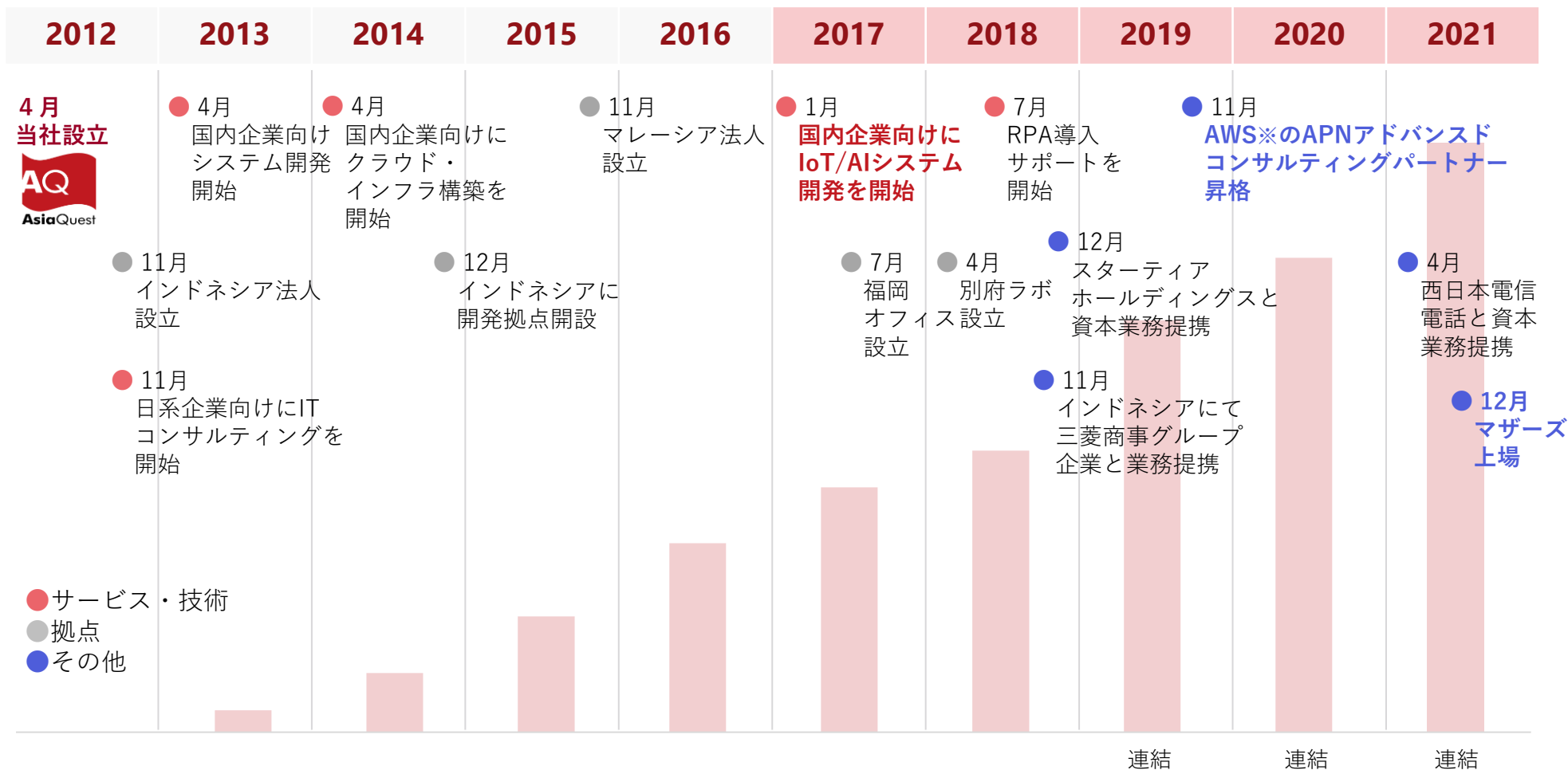
## Brand Slogan ブランドスローガン

**Pure Challenge with You**

# 沿革

2012年の設立以来、技術領域・拠点の両面で拡大

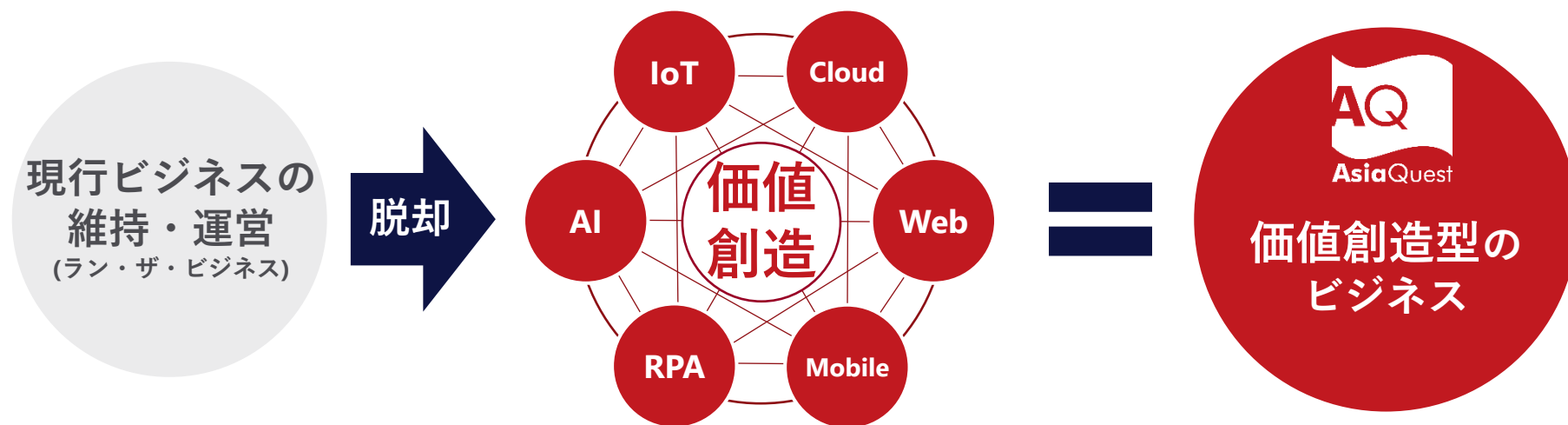
## DXの支援本格化



※ Amazon Web Services

# 事業内容～デジタルトランスフォーメーション事業

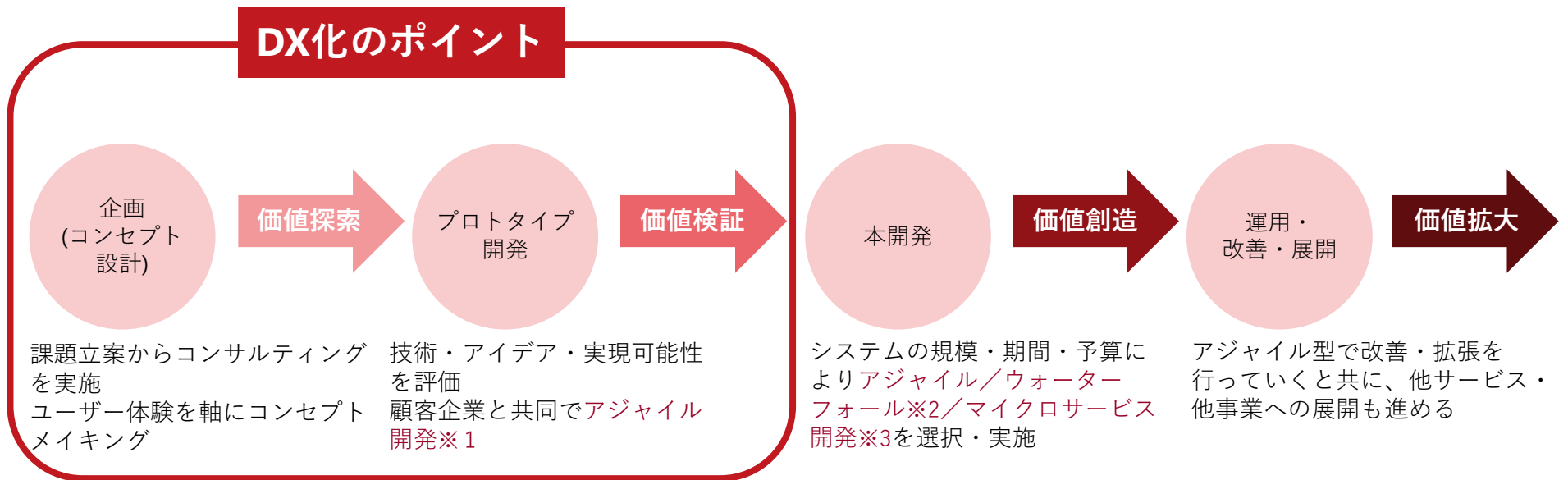
従来のITの領域を脱皮し、デジタル技術を活用した新しいSIサービスを展開



お客様と一体となってDXを推進する共創的パートナーへ

# 当社の支援プロセス

DX実現において新たな価値創造を行う為には、仮説検証型の開発を推奨



価値探索、価値検証フェーズで、不確実性を減らしながら、コンセプトの検証、選択肢の絞り込み、意思決定を行う

※1 迅速・柔軟な推進を実現する開発手法

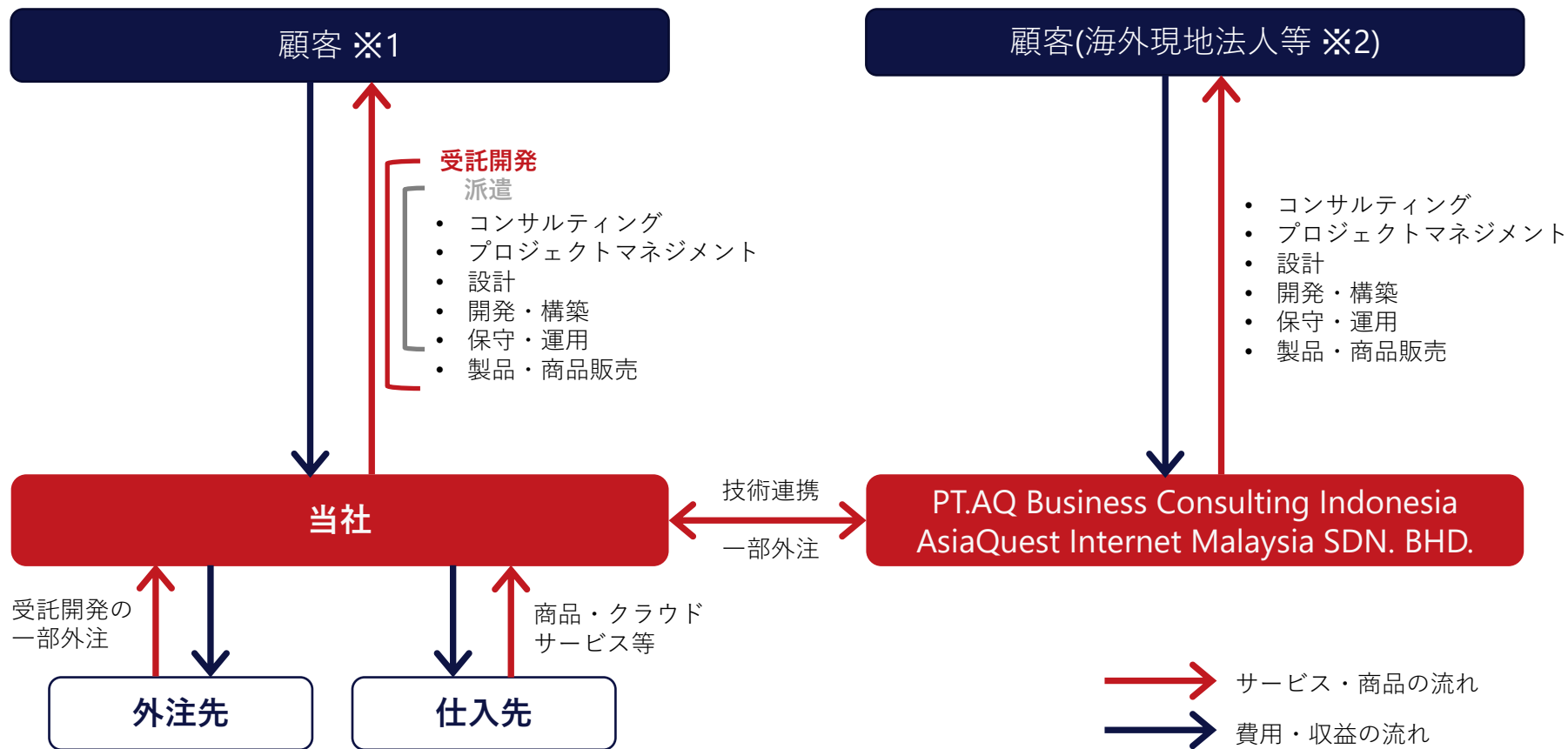
※2 古くからあるポピュラーな開発手法

※3 小さな独立した複数のサービスでソフトウェアを構成する開発手法



# ビジネスモデル

顧客ニーズに応じて、受託開発・派遣を選択、業務範囲も上流から下流まで幅広く対応



※1 情報通信業、サービス業、建設業の企業が中心

※2 日系企業の海外現地法人が中心

# 主要取引実績

DX案件を軸に多種多様な業界にわたる取引実績あり、着実に縦・横に拡張

## 情報・通信

伊藤忠テクノソリューションズ(株)  
エヌ・ティ・ティ・データ先端技術(株)  
(株)NTTドコモ  
クラウドサーカス(株)  
ソフトバンク(株)  
(株)DTS  
(株)電通国際情報サービス  
西日本電信電話(株)  
日鉄ソリューションズ(株)  
(株)フュートレック

## 卸売・小売

エノテカ(株)  
三菱商事(株)

## 建設・不動産

(株)安藤・間  
(株)オープンハウス  
鹿島建設(株)  
野原ホールディングス(株)  
前田建設工業(株)  
(株)One Team

## 製造、サービス他

(株)アイテム  
大分県別府市  
カゴメ(株)  
日本たばこ産業(株)  
(株)リクルート  
りらいあコミュニケーションズ(株)

(50音順、敬称略)

# ソリューション事例

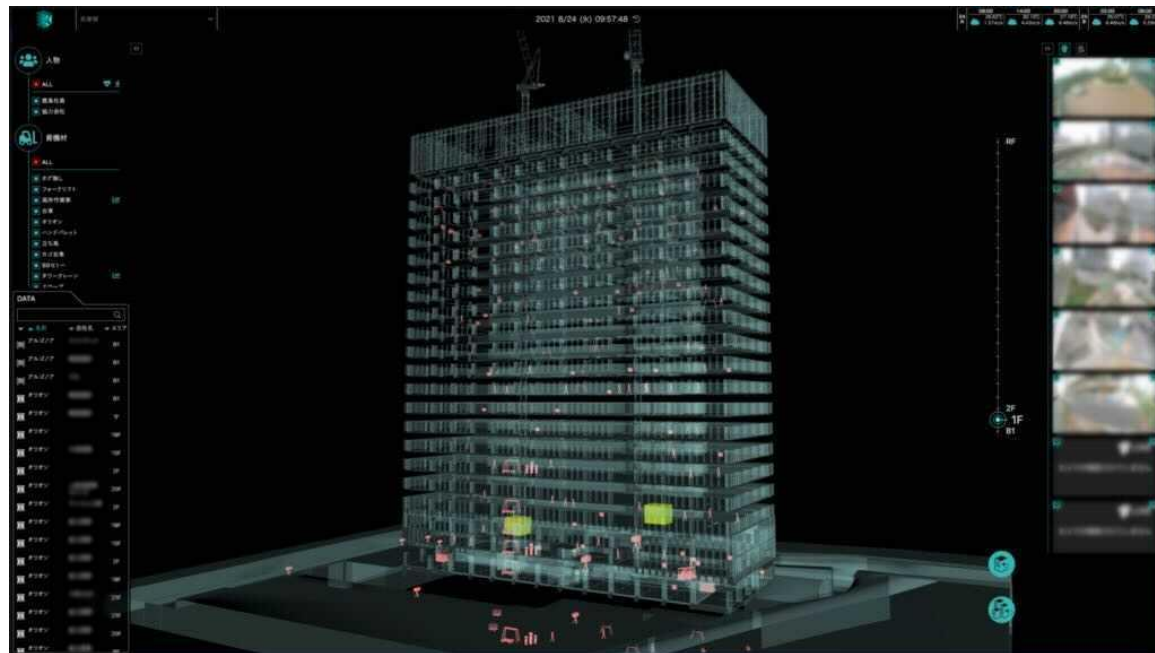
IoT・AI・クラウド技術を活用した、デジタルインテグレーション事例

## 【鹿島建設株式会社様】

鹿島建設様は、建設就業者不足への対応と働き方改革の実現に向けて「鹿島スマート生産」を推進中です。

当社は、その一環として進められている建設現場の管理業務の遠隔化に向けて、建設現場に設置され様々なIoTセンサーで取得したヒト・モノのデータを、デジタル空間の仮想建設現場上に表示することで、リアルタイムに建設現場の状態を可視化することができるデジタルツイン（※）システムを開発いたしました。

また今後は、鹿島建設様などが出資する「HANEDA INNOVATION CITY」を初めとして、各施設の混雑状況や自律走行バスの位置ならびに施設管理スタッフやサービスロボットの稼働状況を把握する施設運営ツールおよびデジタルツインを実現するための空間情報データ連携基盤の開発等をご支援してまいります。



※ IoTセンサーなどを用いて物理空間から取得した情報をもとに、デジタル空間に物理空間のコピーを再現する技術

# ソリューション事例

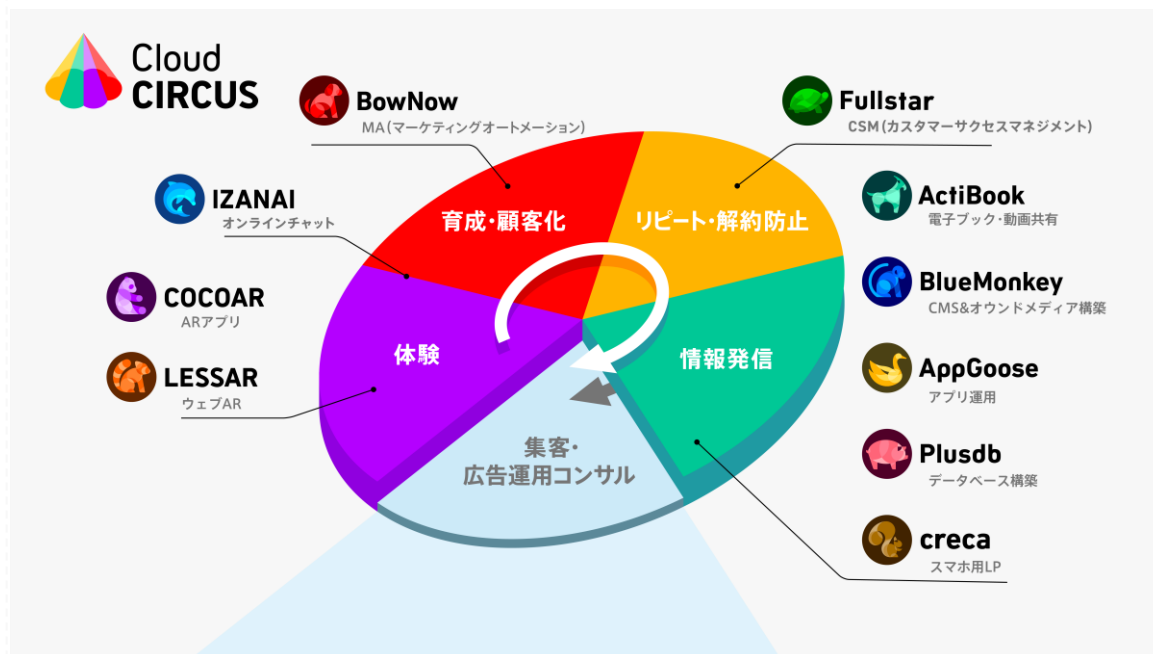
MAからARまで、SaaSツール群開発を幅広い技術分野と業務プロセスで支援

## 【クラウドサーカス株式会社様】

クラウドサーカス様は、「情報発信」「集客」「顧客体験価値向上」「見込顧客育成と顧客化」「解約防止・リピート増」を実現するSaaSツール群を提供しています。

当社は、そのSaaSツール群の中の主にMA(マーケティングオートメーション※)ツールのBowNow、ウェブARツールのLESSARの開発を支援をしてきました。

BowNowではUI(画面)の企画、要件定義、機能設計、開発、テスト、運用、保守までの開発プロセスを一貫して支援しております。Salesforce等の外部サービスとの連携機能の開発、UI(画面)の企画/開発、運用・保守においてはAWS・クラウド技術を活用したインフラ基盤の改善を行っており、幅広い技術分野で支援しております。



※顧客や見込み客へのマーケティング施策を実施するため、顧客情報を一元化し、メール送信などを自動化すること

# 従来ITサービスからデジタルへの移行

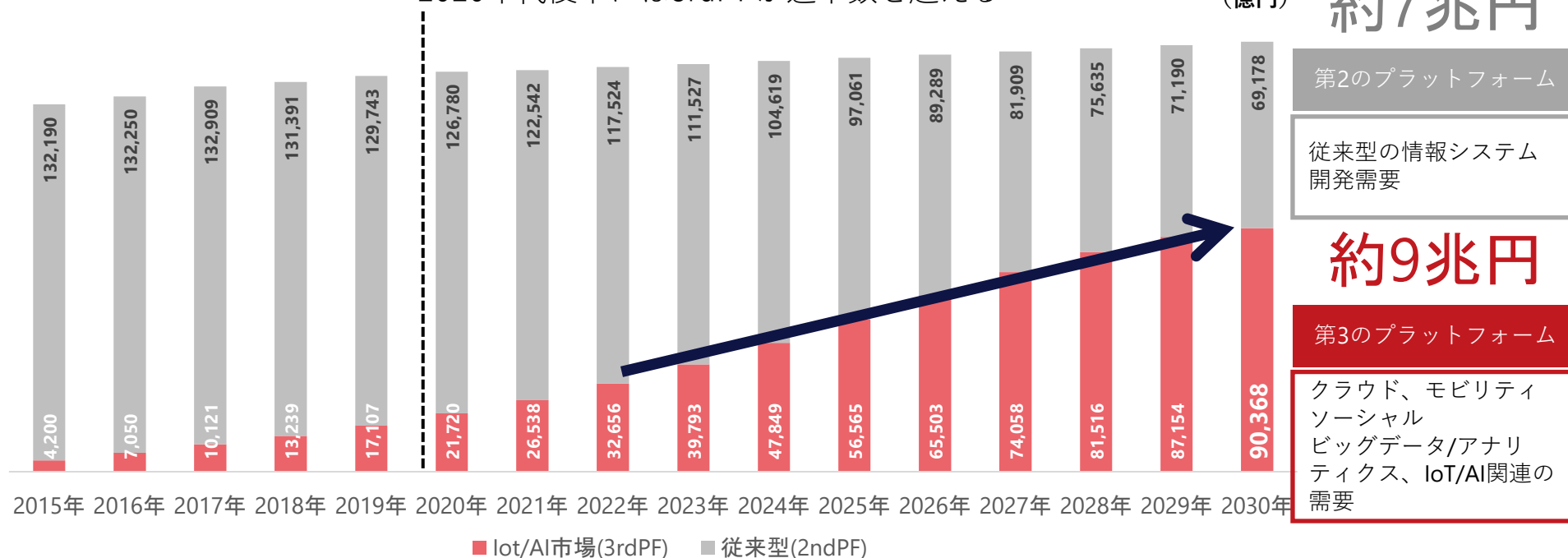
ITサービス市場は従来型のITサービス(2ndPF)から新しいIT投資(3rdPF)の時代に

## 【ITサービス市場の構造変化】

ITサービス市場は減少 = 旧来のSIビジネスの減少へ

IoT/AIなどの3rdPF市場大幅増加

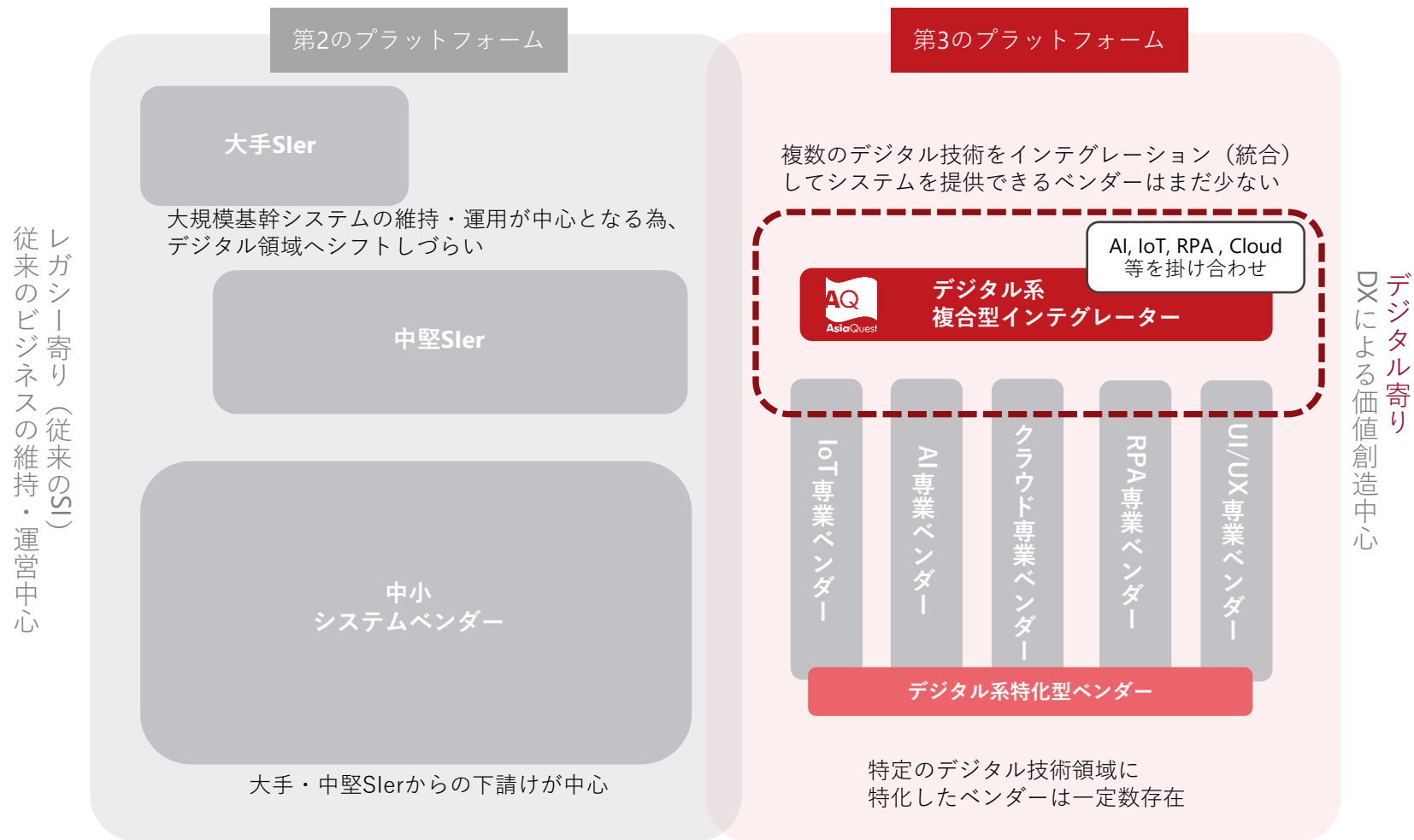
2020年代後半には3rdPFが過半数を超える



(出典) 経済産業省 『参考資料 (IT人材育成の状況等について) 』

# SI市場におけるポジショニング

複数のデジタル技術を活用した複合型インテグレーター



# 当社の強み・特徴

DX市場の成長に応えるケイパビリティを備える

各デジタル技術分野を高い水準で網羅し、  
DXに必要な多分野の工程をワンストップで発注可能



## 2 2021年12月期業績



# 業績ハイライト

---

増収増益で順調に成長  
営業利益は前期比で約3倍に拡大

売上高

**2,236** 百万円

前期比 +**24.2%**

営業利益

**293** 百万円

前期比 +**200.5%**

経常利益

**289** 百万円

前期比 +**188.0%**

親会社株主に帰属する  
当期純利益

**195** 百万円

前期比 +**211.5%**

# 2021年12月期 業績概況

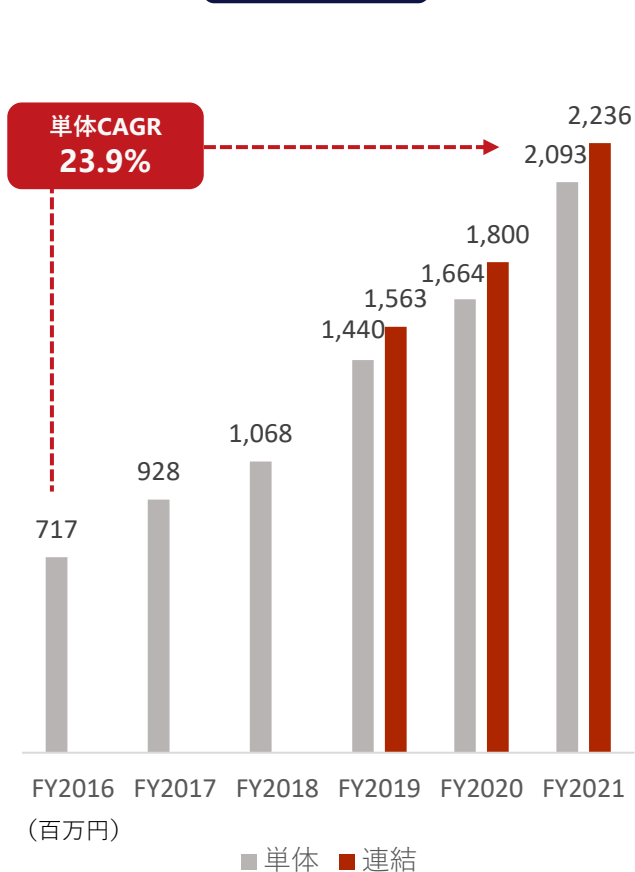
旺盛なDX案件の引き合いを背景に売上高は2,236百万円（前期比+24.2%）、営業利益は293百万円（同+200.5%）、親会社株主に帰属する当期純利益は195百万円と大幅増益となり、いずれも過去最高の業績

(百万円)	2020年12月期	2021年12月期	前期比		2021年12月期 (予想)	予実 進捗率
			増減額	増減率		
売上高	1,800	<b>2,236</b>	+435	+24.2%	2,209	101.2%
営業利益	97	<b>293</b>	+196	+200.5%	274	106.9%
(%)	5.4%	<b>13.1%</b>	+7.7pt	—	12.4%	—
経常利益	100	<b>289</b>	+189	+188.0%	258	112.1%
(%)	5.6%	<b>13.0%</b>	+7.4pt	—	11.7%	—
親会社株主に 帰属する当期 純利益	62	<b>195</b>	+132	+211.5%	176	111.2%
(%)	3.5%	<b>8.8%</b>	+5.3pt	—	8.0%	—

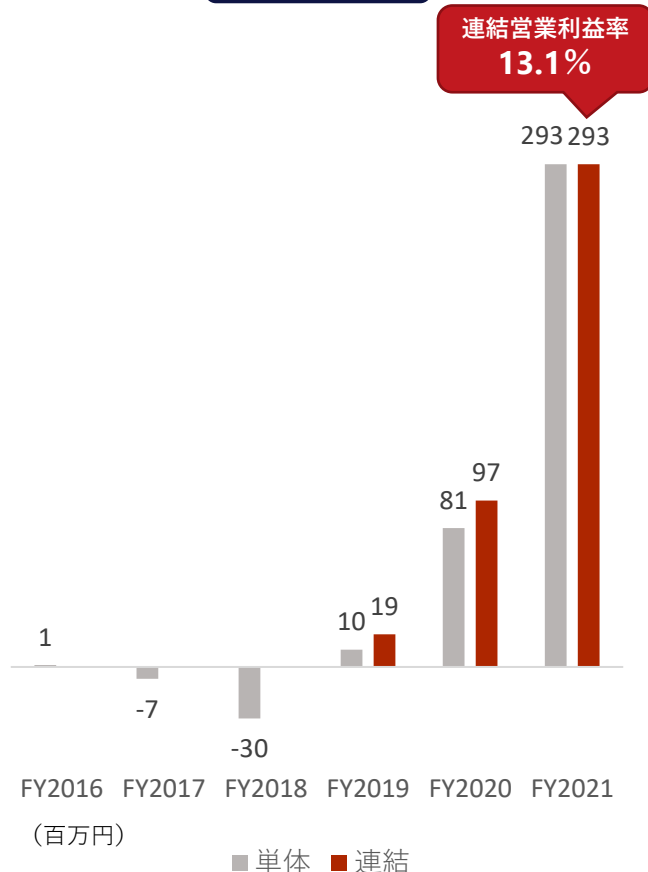
# 主要KPIの推移

売上高、営業利益、エンジニア数ともに順調に伸張

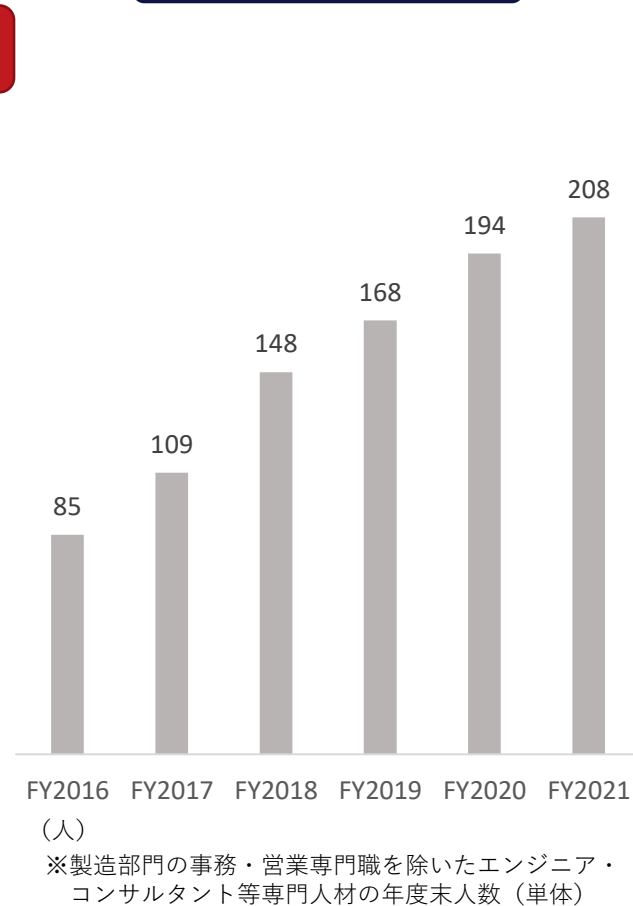
## 売上高



## 営業利益



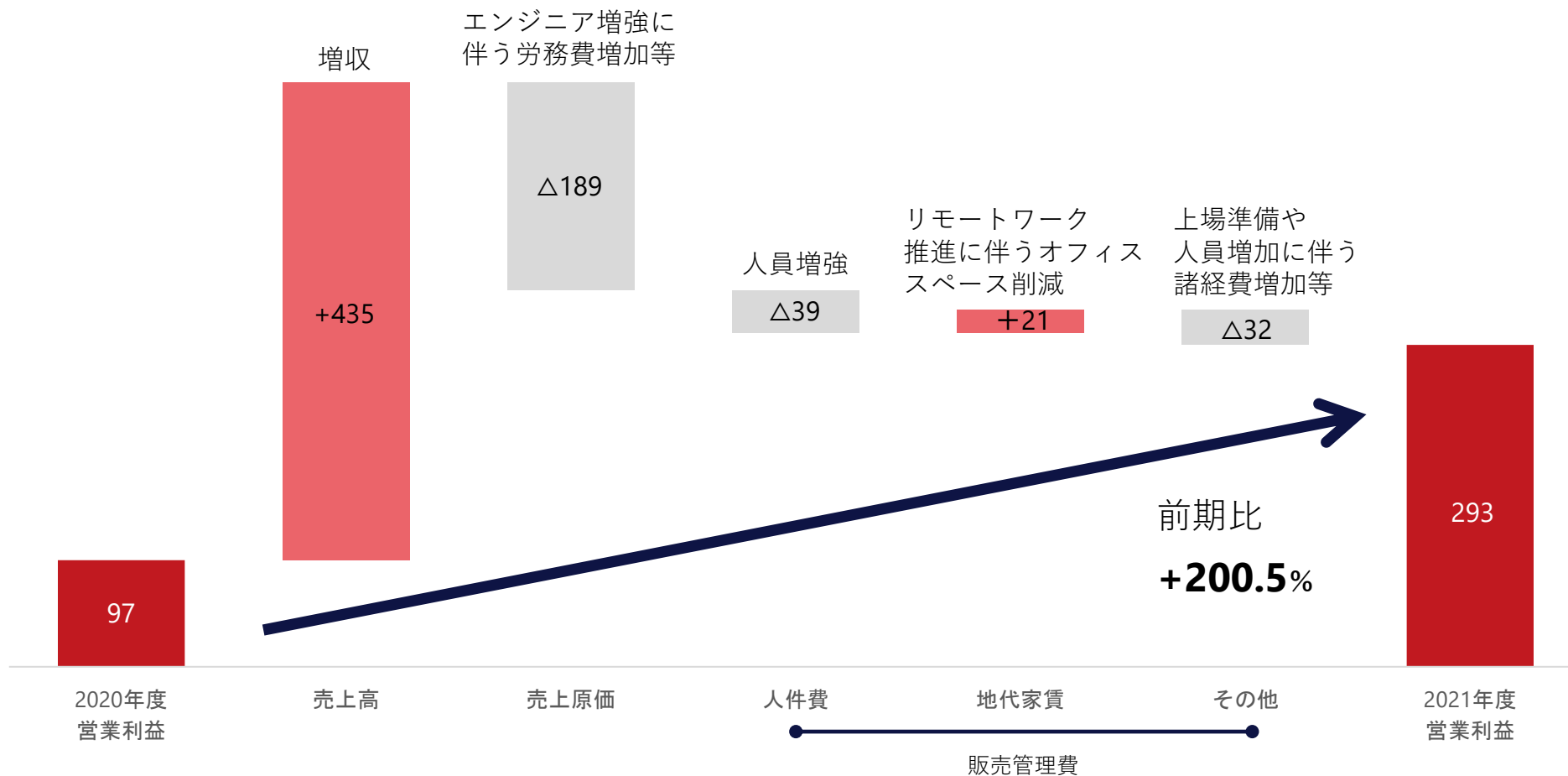
## エンジニア数 (単体)※



# 営業利益の増減分析

人員増加に伴い費用増加も、売上高の大幅増収や地代家賃削減等で営業利益は前期比+200.5%に伸張

(百万円)



# 2021年12月期 連結B/S概要

IPOによる資本調達や減債進捗により、財務健全性向上

(百万円)	2020年12月期	2021年12月期	前期比
資産合計	1,276	<b>1,972</b>	+696
流動資産	1,097	<b>1,823</b>	+725
固定資産	178	<b>149</b>	△28
負債合計	1,080	<b>1,061</b>	△18
流動負債	466	<b>562</b>	+95
固定負債	613	<b>499</b>	△113
純資産	196	<b>911</b>	+715
総資産	1,276	<b>1,972</b>	+696
(参考)			
現金及び預金	791	<b>1,489</b>	+698
有利子負債	689	<b>569</b>	△119

### 3 2022年12月期業績予想

# 2022年12月期業績予想

引き続き顧客需要は旺盛であり、需要に対応すべくエンジニアの増強・育成により増収増益を見込む

(百万円)	2021年12月期 (実績)	2022年12月期 (予想)	前期比	
			増減額	増減率
売上高	2,236	<b>2,663</b>	+427	+19.1%
営業利益	293	<b>338</b>	+45	+15.4%
(%)	13.1%	<b>12.7%</b>	△0.4pt	—
経常利益	289	<b>334</b>	+44	+15.3%
(%)	13.0%	<b>12.5%</b>	△0.4pt	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	195	<b>231</b>	+35	+18.3%
(%)	8.8%	<b>8.7%</b>	△0.1pt	—

前提等

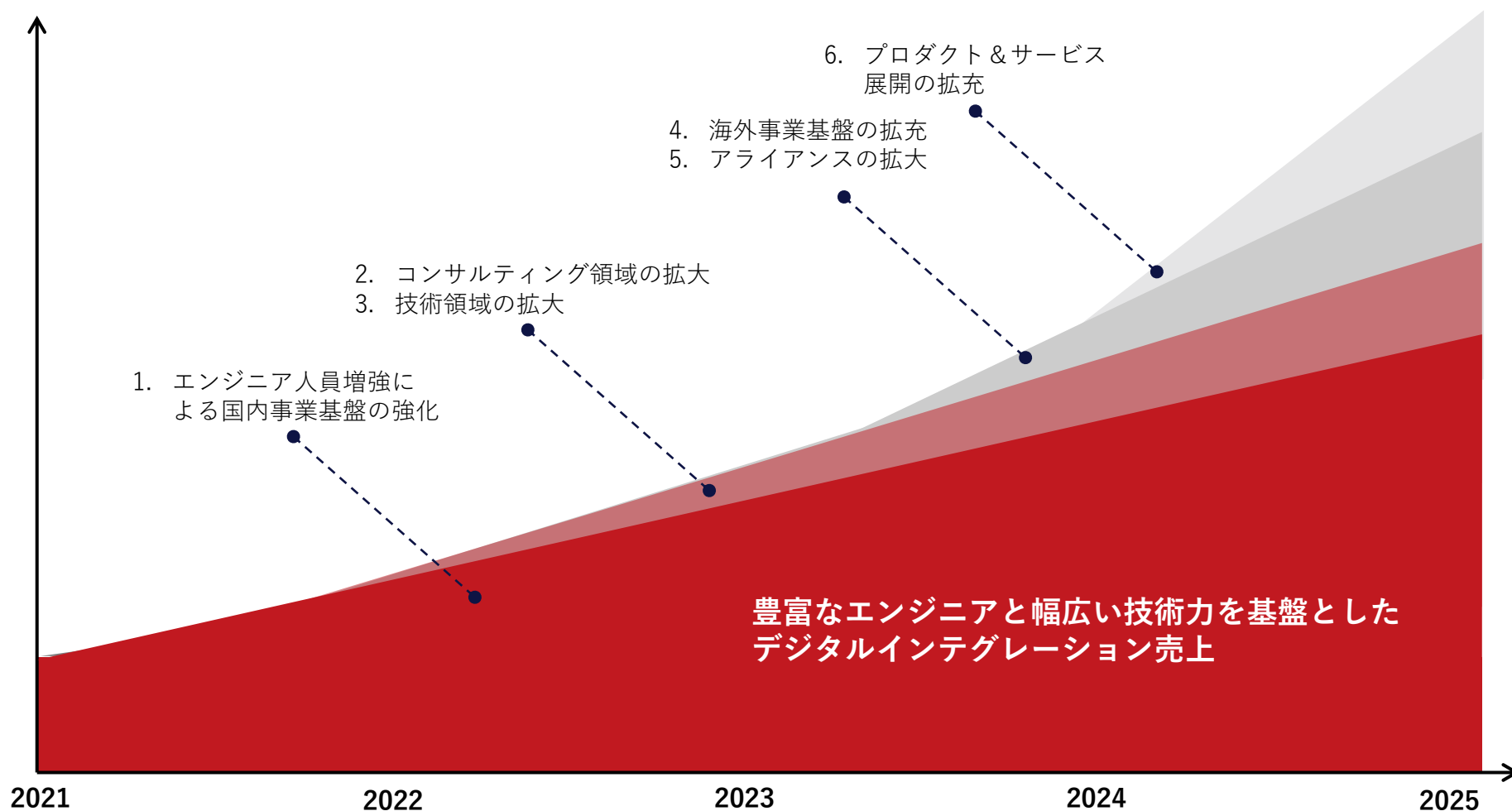
- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う大きな影響は、特段見込まず
- 顧客需要は旺盛であり、エンジニアやコンサルタントの増強・育成に積極投資
- 営業外損益は、2021年12月期の一過性収益と上場関連費用がともに減少見込

## 4 成長戦略



# 成長戦略

デジタルインテグレーションを基盤に、以下の成長戦略を実行していく



# 成長戦略の狙いと進捗状況

## 案件数の増加



## 案件単価の上昇

1.

エンジニア人員  
増強による国内  
事業基盤の強化

エンジニア数は着実に増加。2022年4月入社予定の新卒は前期の倍

4.

海外事業基盤の  
拡充

新規拡大はコロナ収束後に検討。既存組織の充実を優先

2.

コンサルティング  
領域の拡大

コンサルティング専門  
部署を新設

3.

技術領域の  
拡大

3D Model、XR(※)  
技術を使用した案  
件の拡大

5.

アライアンスの  
拡大

西日本電信電話(株)と資本業務提携実施。新規外注パートナーの開拓

6.

プロダクト &  
サービス  
展開の拡充

将来のプロダクト化に向けた技術資産の蓄積

※クロスリアリティの略で現実世界と仮想世界を融合することで、現実にはないものを知覚できる技術の総称。

「VR」「AR」「MR」等の技術が含まれる

## **5 Appendix**

# 役員構成

役員構成は取締役4名、監査役3名

**桃井 純**  
代表取締役  
社長

20年以上にわたる、IT業界経験および経営経験を有する。

1999年アイポイント(株)を設立。

2012年4月に当社設立し、代表取締役就任。

**岩崎 友樹**  
取締役  
デジタルトランス  
フォーメーション  
事業部長

アイポイント(株)におけるシステム開発事業等の経験を経て、2012年7月に当社入社。

2019年1月よりデジタルトランスフォーメーション事業部長就任。

2019年9月より取締役就任。

**外谷 悠一郎**  
取締役  
管理本部長

(株)商工組合中央金庫における金融サービス提供、経営企画業務等の経験や経済産業省への出向を経て、2019年1月に当社入社。

2019年8月より管理本部長就任。2019年9月より取締役就任。

**西野 伸一郎**  
取締役（社外）

富士山マガジンサービス(株)の創業者・代表取締役社長CEO。

(株)ネットエイジグループやAmazon.com, Inc. 等で複数の事業・会社立ち上げを牽引。

2012年8月より取締役就任。

**早川 忠雄**  
常勤監査役（社外）

(株)セブン-イレブン・ジャパンにおける情報システム業務、(株)セブンドリーム・ドットコムにおける取締役、(株)セブン&アイ・ホールディングスにおける監査役経験等を経て、2018年9月より監査役就任。

**岡田 雅史**  
監査役（社外）

公認会計士

監査法人トーマツにおけるパートナーとしての監査業務、ココネ(株)におけるCFO経験、グローウィン・パートナーズ(株)における投資事業経験などを経て、2018年12月より監査役就任。

他社の役員等も兼務。

**飯谷 武士**  
監査役（社外）

弁護士・米国ニューヨーク州弁護士

花王(株)における企業法務経験や複数の法律事務所におけるM&A・資本業務提携・その他企業法務全般の幅広い経験等を経て、2021年3月より監査役就任。

サウスゲイト法律事務所・外国法共同事業のパートナーも兼務。

# 連結損益計算書(詳細)

(千円)	2019年12月期	2020年12月期	2021年12月期
売上高	1,563,783	1,800,960	2,236,268
売上原価	951,704	1,028,089	1,217,580
売上総利益	612,079	772,871	1,018,687
販管費及び一般管理費	592,690	675,068	724,814
営業利益	19,388	97,802	293,873
営業外収益	3,939	11,811	8,793
営業外費用	4,628	9,015	12,910
経常利益	18,699	100,598	289,756
特別損失	8,787	13,902	—
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失	△4,270	62,861	195,827

# 連結貸借対照表

(千円)	2019年12月期末	2020年12月期末	2021年12月期末
流動資産	618,887	1,097,974	1,823,346
現金及び預金	285,665	791,453	1,489,494
売掛金	289,540	273,277	299,020
固定資産	199,125	178,441	149,642
有形固定資産	94,809	88,031	86,333
無形固定資産	8,715	9,417	9,469
投資その他資産	95,600	80,993	53,840
<b>資産合計</b>	<b>818,012</b>	<b>1,276,416</b>	<b>1,972,989</b>
流動負債	452,806	466,696	562,097
買掛金	45,102	43,764	33,703
短期借入金	76,000	—	3,749
1年内返済予定の長期借入金	63,434	103,924	94,017
固定負債	228,912	613,643	499,812
長期借入金	181,507	570,279	458,889
純資産	136,293	196,076	911,078
<b>負債純資産合計</b>	<b>818,012</b>	<b>1,276,416</b>	<b>1,972,989</b>

# 連結キャッシュフロー計算書

(千円)	2019年12月期	2020年12月期	2021年12月期
営業活動によるキャッシュフロー	667	189,574	301,909
投資活動によるキャッシュフロー	△101,027	△29,000	3,928
財務活動によるキャッシュフロー	63,572	348,293	385,917
現金及び現金同等物の増減額	△35,517	505,787	698,041
現金及び現金同等物の期末残高	285,665	791,453	1,489,494

# 免責事項及び将来見通しに関する注意事項

---

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。

これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されたものにすぎません。

さらに、これらの記述は、現在における見込み、将来の結果や業績を保証するものではありません。

このような将来予想に関する記述には、リスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。

これらの記述に記載された結果と大きく異なる可能性のある要因には、国内および国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限られるものではありません。

また、当社以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証していません。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。





## アジアクエスト株式会社

---

〒102-0072

東京都千代田区飯田橋3-11-13

飯田橋 i-MARK ANNEX 6F

Tel: +81-3-6261-2701

Fax: +81-3-6261-2702

<https://www.asia-quest.jp/>

### — お問い合わせ先 —

管理部

電話番号：03-6261-2701 メールアドレス：ir@asia-quest.jp